

# よしきい

2021年 11・12月



## 目次

- 公園の風景
  - モズの干物作り・・・・・・・・・・1
  - ミニ水族館ができました・・・・・・・・1
  - 紅葉まっさかり ナンキンハゼ・・1
- きらら浜 蜂蜜物語 ⑦・・・・・・2
- みんなのひろば
  - 未確認飛行物体？・・・・・・・・・・2
- 活動紹介
  - 2年越しのふれあいまつり♪・・・・3
  - パソコンで鳥クイズ・・・・・・・・・・3
  - クロツラよ、ラムサールの使者となれ！ 3

小さなハンター、モズ降臨！

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

**会員募集中！（高校生以上）**

# 公園の風景

## = モズの干物作り =

モズは干物を作る名人で、バッタやカエル、トカゲや小鳥まで何でも枝に突き刺して干物にしてしまいます。この干物は「はやにえ」と呼ばれています。人間にとって干物は保存食であるように、モズにとっても冬の間の大事な保存食として役立っているようです。



バッタをはやにえに

最近の研究で、冬のエサが少なくなる時期にこのはやにえをたくさん食べたモズは、春の繁殖期に歌が上手になりメスにとってもモテることがわかりました。モズを漢字で書くと「百舌鳥」。いろいろな鳥の声をマネすることからついた名前だそうです。これもこれもメスにモテるため。野生動物にとってモテるということはとても大事なことです。

## = ミニ水族館ができました =



10月3日に中国電力との共催で行われた「エネルギー自然観察会」では、当日集まった子供達やそのご家族と共に干潟や汽水池で小さな生き物たちを採集しました。さまざまな種類のエビやカニ、トビハゼなどを種類別に分けた後、それぞれを中国電力から寄贈された水槽36個に入れて観察ホールの一角に

展示しました。以後、元々観察ホールにあった水槽と合わせ常設展示となっています。

その後、凄腕の園長が観察ホールのすぐ下の干潟で捕まえた特大!激レア!の蟹、ノコギリガザミが加わり、来館者を待ちかまえています。31日の葦の会主催のふれあいまつりでは、参加者たちのワイヤーアートによるカラフルな魚や貝、そしてクロツラヘラサギがミニ水族館を盛り立ててくれました。

## = 紅葉まっさかり ナンキンハゼ =



ナンキンハゼはトウダイグサ科の落葉高木だ。このシーズン、葉が美しく色づき存在に気付かされるが、花も地味めで普段はあまり注目される木ではない。しかし成長が早く、樹高は15m程にもなり街路樹や公園樹として利用されている。公園内にも4~5m程に成長した木がヨシ原沿いに見られる。

葉はハート形を連想させ葉脈も美しい。雌雄同株で、初夏に立ち上がるように伸びた軸に多数の細かい黄色の雄花をつけ、その下に1~3個の雌花をつける。開花後に葉と同じ緑色の果実をつけ、秋を迎える頃に三角がかった球状の黒い実となる。この中には3個の種子があり、実がはじけると蠟状物質で表面が覆われた白色の種子が現れる。例年公園で開催される「クリスマスリースを作ろう」のイベントでは雪をイメージする材料として欠かせないものとなっている。種子は果皮から落ちることなく紅葉期から落葉後まで樹上の枝先に残り、ムクドリなどの餌となっている。



ウルシ科の「ハゼノキ」とは別物であるが、ハゼノキのように蠟が採取できる中国の木という意味で「ナンキンハゼ」と命名されたとのこと。

阿知須を流れる井関川の水門辺りではきららドームを迂回する道路に沿うように植えられている。

# きらら浜 蜂蜜物語 ⑦



pinta.jp - 68629588

いよいよ冬越しの時を迎えました。春、夏、秋と花蜜を求めて飛び回っていた働きバチは巣の中で女王バチを囲んで身を寄せ合い、集めて貯蔵した蜜や蛋白源である花粉を食べて冬を過ごします。養蜂家は不足のないように砂糖水をしっかりと与えるほか、(葦の会会員で公園のミツバチを見守るNさんは砂糖水を与えず、できるだけ自然な蜂蜜作りを目指しているそうです) 巣箱を日当たりの良い場所に移動させたり、冬囲いをしたり、出入り口は板で覆って小さくし風を防いだりして、巣箱の温度が下がらないよう調節しながらミツバチとともに春を待ちます。

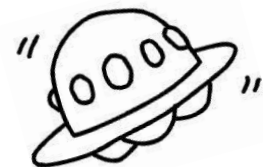
蜂蜜は本来、ミツバチが羽ばたいて水分を飛ばし、糖度を約80%に高めたものですが、市販品の中には人工的な加工をされたり低純度だったりして、香りや風味、栄養が損なわれているものもあります。本物の蜂蜜はビタミンやミネラルなどの栄養価も高く、傷ややけど、咳止め、抗菌の他、美容などにもパワーを発揮する優れたものなのです。公園ではNさんのミツバチが作った純度100%の純粋蜂蜜をお求めいただけます。これを機会に本物の味を試してみたいはいかがでしょうか。

スプーン一杯の蜂蜜を集めるのに生涯を費やす働き者の小さなミツバチたち。その短い一生と、おどろきの知恵や労力にも思いをはせてみてください。

(完)

## みんなのひろば😊

### 未確認飛行物体？



公園内で撮った2枚の写真、これはいったい何でしょう？合成写真ではありません。一見、何かが宙に浮かんでいる?!ように見えたものは、蜘蛛の巣に引っかかっている松かさと大きな木の枝でした。蜘蛛の巣が上から降ってきたこんな重量のあるものを受け止められることに驚きましたが、実際、蜘蛛の糸を直径1センチの束にすると、同じ太さの鉄より強い(!!)といわれます。山形県のある会社が世界に先駆け、蜘蛛の糸を応用して作る伸縮性のある人工繊維の実用にこぎつけたというニュースもあります。石油由来ではない新素材として注目され、アパレルの他、医療、建築、宇宙開発……など幅広い分野への期待が高まっているそうです。芥川龍之介もビックリ？蜘蛛の糸、恐るべし。

(nimu)



# 活動紹介

## = 2年越しのふれあいまつり♪ =



ゲーム「マツボッチャ」

2年越しの開催となった今年は、現在公園が目指している「山口湾をラムサール条約登録の地へ」をテーマとしました。「ラムサール条約」とは水鳥が生きるのにふさわしい湿地を守るための国際的な条約です。

自然を守りながら人間との共存を図り、



アウトドアすごろく

経済的な活動とのバランスがとれた保全と維持をこれからの子供たちに引き継ぐためのものです。この趣旨をゲームに取り込んだり、缶バッジを作成したりと、周知することに努めました。

コロナ禍ゆえに目玉である恒例の餅つきもプログラムに組み込むことは出来ませんでした。好天に恵まれ多くの方々に来園頂けました。トーナメント制で行った、松ぼっくりを使ったボッチャ（パ



葦の会製作の大型紙芝居に見入る子供達



量一枚ほどの大きさ！

ラリンピックで注目された競技）は予約が入る程の新しい人気ゲーム「マツボッチャ」となりました。充実したプログラムに、ふれあいまつりを訪れた方々もきっと満足して頂けたことと思います。

<俳句教室優秀作>

## = パソコンで鳥クイズ =

観察ホールのカウンター横に置いてある、葦の会新会員 K さん作製の「パソコン鳥クイズ」が子供たちに人気です。初級、中級、上級があり、初級と言ってもなかなかの難問もあります。それぞれ全問正解すると館内に賑やかな音楽が流れます♪♪♪

是非挑戦してみてください！

・  
秋  
蜘蛛の一晩ごとの大仕事

枝  
里

10月

## = クロツラよ、ラムサールの使者となれ！ =

11月5日にクロツラヘラサギが2羽、多摩動物公園から新しくやって来ました。まだまだ新天地におっかなびっくりの様子ですが、エサは元気に食べているようです。残念ながら



ら2羽ともメスなので繁殖はできませんが、公園のマスコットバードとしての活躍間違いなし。クロツラヘラサギはラムサール条約登録を目指す山口湾のシンボル鳥でもあります。朝鮮半島からの飛来も月ごとに数を増し、11月の山口湾の調査では過去最高の34羽を確認しました。

<編集後記> 淡水池のカモが日ごとに種類と数を増し園内が活気づく11月。機関紙「よしきり」は年内最後の発行となる113号です。ヨシ原も枯れ色と化し、ミツバチ達も冬眠に入る直前ですが、機関誌チームは眠ってはいられません。鮮度のある公園の様子や活動をお届けすべくアンテナを張って紙面の充実を目指します。皆様の投稿やご意見お待ちしております。来年もよろしくお願いします。

(Tasha)